



第 86 回 ルネサンス①

1 ルネサンスとは何か？

・ルネサンスとは、フランス語で「」という意味である。
→14～16世紀に、()や()など古代の文化が復興し、優れた芸術作品が生み出されたことを意味する。

- ・中世ヨーロッパは、ローマ=カトリック教会（カトリック）の力が強く、キリスト教的な世界観によって支配されていた時代であった。
→しかし()の失敗や()などで、ローマ教会の権威は低下していた。
- ・中世末期には、戦争や反乱、()の流行により大量の死がもたらされた。
→ルネサンス期の市民たちは、キリスト教的な旧来の世界観にしばられず、「現世をより楽しく人間らしく生きよう！」と考えた。
→個性や個人の価値が自覚され、人間のありのままを肯定する考えが生まれた。
→これを「」といい、ルネサンスの根本精神とされる。
- ・ルネサンスは有力者や国王に保護されたため貴族的性格を帯びており、既存の政治体制や教会を正面から否定するものではなかった。

2 ルネサンスがまずイタリアで起こった理由

・当時のイタリアは、王家の()が断絶し、国王がいなかった。
→数多くの都市国家に分裂している状態であった。

- ・しかし東方貿易で栄えた()・()、金融業や毛織物業で栄えた()・()など、各都市は大きく発展していた。



フィレンツェ

フィレンツェとは「花の都」の意味。人口は 20 万人を超え、当時ヨーロッパでは最大の都市であった。この町が、ルネサンスの中心となっていく。世界で最も美しい町のひとつとっていいだろう。



コジモ=デ=メディチ ロレンツォ=デ=メディチ

コジモとロレンツォは、メディチ家最盛期の当主である(ロレンツォはコジモの孫)。コジモは、アカデミーというギリシア哲学の研究所を開設した。

- (1) 十字軍以後、() が盛んになりイタリアの諸都市は栄えていた。
- (2) 14 世紀にはフィレンツェの()、15 世紀末以降はヴァチカンのローマ教皇など、都市の有力者がパトロンとなって学問や芸術を保護した。
- (3) 十字軍以降に() と接触したこと、オスマン帝国に滅ぼされたビザンツ帝国から学者が逃れてきたことから、大きな影響を受けた。
- (4) イタリアにはローマ帝国の遺跡などが多く残っていた。

3 イタリア=ルネサンスの文学・建築・彫刻

<文学>

() …ルネサンスの先駆的な人物で、イタリア最大の詩人とされ、『
』をラテン語ではなく()で書いた。
→これが現在のイタリア語のもとになった。
『新生』では、永遠の女性ベアトリーチェへの愛をうたった。



ダンテ

フィレンツェ出身で、13世紀末から14世紀初めに活躍。『アエネイス』で知られるローマの詩人ウェルギリウスを尊敬し、『神曲』では案内人として登場させている。



ベアトリーチェ

後の画家が描いたベアトリーチェの絵。ベアトリーチェは、文学史上最高のヒロインとされている。



『神曲』『天国編』より

天を見上げるダンテとベアトリーチェ。なお『神曲』という日本語タイトルは、森鷗外がつけたといわれる。

() …14世紀に、近代小説最初の作品『
』を書いた。
() …代表作は『叙情詩集』。ヒューマニスト(人文主義者)の先駆者。



ボッカチオ

ギリシア古典を研究し、ホメロスをラテン語に訳したことも知られる。ペトルカと仲が良かったらしい。



『デカメロン』の挿絵

ペストの流行を逃れた10人の男女が、10日間にわたって、1日1話ずつ語っていく。僧侶絡みの下ネタが多く、教会の墮落が批判されている。



ペトルカ

叙情詩人といえはこの人。古代ローマの文学にはまり、古代ブームの火付け役となった。彼もルネサンスの先駆者だろう。生涯独身だったが、子供は3人いる。

<ルネサンス様式の建築>

() …フィレンツェの()の設計をした。
() …ヴァチカンの()の設計をした。
→メディチ家出身のローマ教皇()は、この建設資金を集めるため、贖宥状の販売に力を入れた。



サンタ=マリア大聖堂

正式には、サンタ=マリア=デル=フィオーレ大聖堂という。この大聖堂は、ルネサンス様式の傑作とされ、ドームと列柱が特徴的である。



ブラマンテ

「古代の建築を蘇らせた男」とされ、ルネサンス最大の建築家である。サン=ピエトロ大聖堂の設計を行ったが、完成前に死去した。



サン=ピエトロ大聖堂

サン=ピエトロ大聖堂は、世界最大の聖堂であり、カトリックの総本山である。設計は、ブラマンテの死後にラファエロ、そしてミケランジェロへと受け継がれた。

<彫刻>

ギベルティ …彫刻家・金細工師で、特に青銅の鑄造にすぐれた。
() …天才彫刻家で、数多くの作品を残した。「ダヴィデ像」。



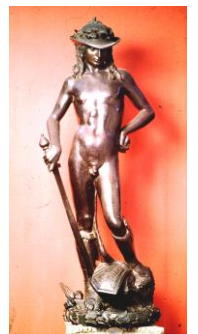
ギベルティ

時代としてはルネサンス初期にあたる。フィレンツェのサンタ=マリア大聖堂の扉に、25年かけて『旧約聖書』のエピソードを彫った。



ドナテルロ

ドナテルロは、写実的な彫刻を作成して、ミケランジェロやダ=ヴィンチにも多大な影響を与えた人物である。代表作の「ダヴィデ像」は、論争を巻き起こすこととなった。



「ダヴィデ像」